

## 精工産業

# 作業者接近検知システム

# 販売好調なお拡販へ



作業者の接近を磁界で検知

溶接機材や精密機器「属などを販売する精工  
・工具、鋼材、非鉄金 産業（本社）東京都中

中央区、小菅治男社長）は、作業者接近検知システム機器「ヒヤリハンター」の販売が好調に推移し、一層の拡販に取り組む。既に鉄鋼・非鉄金属業界大手メーカーの工場や物流拠点にも導入され、高い評価を得ている。今後はさらなる需要拡大も視野に入れ、販売体制を強化していく。

「ヒヤリハンターは、工場や物流拠点などの作業現場での「ヒヤリ・ハット」の軽減を目的に、山九とマトリックス（大阪市北区）が共同開発した製品。目に見えない場所にいる人を検知し、重機オペレーターに危険を知らせることで衝突のリスクを低減する接近検知機器で、フォークリフトなどの重機に取り付けた受信アンテナ・外部機器がタグ（発信機）の電波を磁界で検知するため、物陰やドアの向こうにいる作業者も

検知可能。検知範囲は重機の周囲360度で、検知距離は最大で約14m。作業員だけでなく、検知機器を取り付けた重機同士の接近も検知できる。

また、検知機器ごとに専用のIDを設定、検知エリアを出力。タグから発信される検知IDを認識し、複数重機混在時でも特定機のみが反応するため、車両ごとの鳴らし分けもできる。これにより確

実な検知が可能となり、機器の誤反応を起さない。タグは工場や倉庫などの環境ノイズが多い場所でも安定して作動する。

同社では既存顧客からの問い合わせをきっかけに、今年1月から販売を開始した。現在は着実に導入実績を伸ばしており、ユーザーからの評判は上々。一定期間トライアルで実機を使用できることが

販売好調の一因にもなっている。「実際に使用してもらったことで、製品導入のメリットがより分かりやすくなる」（同社営業担当者）。

ユーザーによっては重機に取り付けるだけでなく、危険箇所や立ち入り禁止区域に設置するなど様々な方法で同製品を活用しているという。今後はこうしたニーズをくみ上げた提案営業や、新製品の開発・販売も行う予定。来年7月に東京ビッグサイトで開催される「労働安全衛生展」への出展も決まっており、認知度向上にも積極的

「労働安全衛生展」への出展も決まっており、認知度向上にも積極的

に取り組む方針だ。